

# 昭和学報

昭和女子大学  
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂  
03(3411)5118  
編集発行人 山崎洋史

## 教養科目を考える

総合教育センター長 廣瀬 伸良

「教養教育とは何か」が、一般教養科目のカリキュラム編成に携わって来た私の数年来のテーマです。教養教育の目標を挙げるとすると、もっともらしいけれど、紋切り型の項目の羅列となってしまう。そこで、ここでは少し異なる観点から教養教育について述べてみたいと思います。

その前に、まず下図をご覧ください。これは本学、学一般教養科目の科目分野とその履修方法を図案化したものです。「心と身体」、「社会を識る」などの六つの科目分野は、言わば「世界」の縮図です。教養科目を履修する学生が学が主体の「わたし」として、「世界」の中心に立っているように見えます。

（知・情・意）やその活動を司るものが「（こころ）」と呼ばれているようにです。人間は「世界」の中で生きて活動し、その精神活動は「世界」の事実と密接に結び付いています。では、「世界」とは何か。色々な定義が出来ると思いますが、ここでは「世界」を無数の情報ネットワークの総体であると見なしてみます。すると、この「世界」という情報ネットワークは、恐らく人間の五感、六感を媒介として脳組織に映し込まれています。そして、この「世界」という情報は、学が主体は飽くまで「わたし」に帰ります。この図で、「わたし」が「世界」の中心に立っているのは、学が主体は飽くまで「わたし」に帰ります。

### 「こころ」と世界との相関性

「こころ」とはそもそも何でしょうか。感情でしょうか、魂でしょうか、それとも精神や知能のことでしょうか。どうやら人間の精神活動全般



教養科目履修イメージ「知の羅針盤」

### わたしの学びは学びではない

さてここで、図の「わたし」に戻ります。この図で、「わたし」が「世界」の中心に立っているのは、学が主体は飽くまで「わたし」に帰ります。この図で、「わたし」が「世界」の中心に立っているのは、学が主体は飽くまで「わたし」に帰ります。

- 今月の昭和学報は
- ① インタビューストップ報告 …………… (2)
  - ② リスト(特)と協働でMTRAI図プロジェクト …………… (3)
  - ③ 輝け☆健康「美」プロジェクト …………… (4)
  - ④ キャロットタワー内レストランにメニュー提供 …………… (4)

でも学生自身であり、その関心のままに「世界」という科目分野を見渡し、そこから様々な科目を自由に選択履修し、様々な情報・知識や発想を得て欲しい、更に高望みすれば、得た情報・知識や発想を独自に関連付け、総合する能力をつけたい。自らの無い学びは、借り物で真の学びとは言えず、本当の生きる支えや力とはなりません。各人がそれぞれの環境、能力、関心に応じて教養科目を履修し、誰にも取っては代われない、掛け替えのない「わたし」やその人生を「再発見し、形成して」いてもらいたいと思います。こうした意味や願いが、この「わたし」には込められています。教養課程が、「わたし」が自ら考へ、表現し、判断する練習の場とならんことを。

## 日本語集中講座 Intensive Japanese Language Program 開始

本年度後期から、日本語初級レベルを修了した留学生を対象とした一セメスターの Intensive Japanese Language Program がスタートした。初年度となる今年には八カ国一三名の留学生在に参加している。プログラム開始に先立ち、九月二四日に開講式が行われ、坂東眞理子学長の他、シュワルツ昭和ポストン学長からも激励の言葉を頂いた。留学生はプログラムに参加する目的や日本滞在中にしてみたいこと等、抱負を語った。授業は週四日、「日本語コミュニケーション A & C」、「コンテツで学ぶ日本語 D & G」、「Internship Preparation」の八科目で構成されている。希望者はプログラム修了後に日本の企業でインターンシップを行うことができる。また、学内の国際交流活動を目的に本年度発足した Global Network の学生が、留学生一人一人の Host Sister という形でペアを組み、来日時の空港出迎えや学生寮への入寮立ち会い、日本の生活に必要な区役所での手続き等、留学生活全般のサポートを行っている。なお、本プログラムは来年度以降も継続する。(国際交流センター)



## 光葉博物館秋の特別展 11/5～12/4 東欧の広場―海外都市広場調査の21年間の足跡

都市広場研究会を組織して都市広場を研究し始めてからほぼ三五年に及ぶが、テーマの性格上海外調査を行うことが条件となったため、海外都市広場調査を開始したのは一九九〇年の夏である。それから毎年実施して来て最終の調査年が二〇一〇年である。その間二一年間であり、ヨーロッパを中心にアフリカ、アジアも含めて二五回調査を実施した。海外都市広場調査としては一九回であるが、関連するアジアの歩行者空間の調査としては四回、それに海外都市広場の補充調査として二回行っている。今回の展示はその中で東欧を調査した内容をまとめたものである。振り返ってみると、調査の開始が東欧であり、この調査で何回も東欧に調査を行っているというのを考えると東欧の比重が都市広場研究会のメンバーにとって重要性が高いと考えている結果であろう。



ワラフ ホーランドの広場

東欧の都市五〇事例の報告を行っていると同様に三つの都市広場の模型を展示している。東欧の地域性と都市の風景を感じ取って頂けることを願っている。(環境デザイン学科教授 芦川智)

# インタビュー報告

## 京王観光株式会社

京王観光株式会社のインタビューに参加し、主に営業への同行や、団体旅行の企画をさせていただいた。

団体旅行を取り扱う支



店だったので、営業では企業や大学に行く機会が多く、旅行の日程の希望を伺うところから、企画を完成させて確認していただくまでの打ち合わせを間近で見ることができた。本学のサマーセッションの見送りにも同行させていただき、空港での航空券の配布から出国までの流れを知ると同時に、学生や保護者への配慮も大切であることを学んだ。

また、旅行の企画では日程や行き先を決めた後、ホテルやバス会社に直接問い合わせる空き状況を確認し、参加者で「追悼の歌」を斉唱。坂東眞理子理事長の講話のあと、代表者が献花を行い、恩師に追悼の意を捧げるとともに、学園の発展への誓いを一人ひとり新たにされた。

## 先哲の慰霊祭



一〇月三日(金)一〇時四〇分より、先哲の慰霊祭がとり行われた。大

学学友会執行部をはじめ、中高部、初等部、幼稚部の代表者が先哲之碑の前に参列した。カリヨンの奏鳴に続き、山崎洋史学

生部長の開式の言葉があった。

元 環境デザイン学科客員教授 望月 和子 先生  
元 日本語日本文学非常勤講師 山下 信一 先生  
元 英米文学科長 藤岡 忠美 先生  
名誉教授 元日本文学専攻主任 藤巻 幸夫 先生  
元 環境デザイン学科客員教授 旧姓品川 元 日本文学科助教 池田 和子 先生  
元 英語英文学科教授 元 英語英文学科教授

況や料金を確認する業務も行った。団体での食事や宿泊、交通手段を手配し、旅の日程を組み立てるには考慮すべき点が多くなり、個人旅行とは異なる難しさがある。

(国際 菅野遥奈)

## 株式会社 ドン・キホーテ



小岩の商店街の二二坪の物件を借り、学生八人が一週間限定でお店の経営を任せられるというものだった。商店を経営する一カ月前から一週間に一度ミーティングを行い、

とを学ぶことができた。一〇日間という短い期間だったが、多くの経験をさせてくださった社員の方々に大変感謝している。

## アメリカ大使館後援

## 学生団体JAZZ活動紹介



私が所属している、アメリカ大使館が後援する学生団体JAZZについて、その活動を紹介します。

私はボストン留学後、

国内で英語を使う機会やアメリカについてさらに深く勉強できる場を探していた。そんな時に、この団体の存在を偶然知り、今年四月から所属することになった。

JAZZとは、Japan America Zaidankaiの略で、日本の学生がアメリカについて学ぶ機会を提供するほか、国際社会で活躍するきっかけとなるような活動を米国大使館の後援で行っている。私は、

家賃をもとに収支計画を作成。商店のコンセプトから顧客ターゲットの絞り込み、仕入れ商品の選定、仕入れ数、価格、店舗名、看板や商品POPのデザインまでを、学生自身が決定した。

実際の店舗での経営は思い通りにいかないことばかりだったが、「Then what? (じゃあ、どうする?)」の精神のもと、自分で考えて実行することの大切さを身

大成設備株式会社 大成設備株式会社の設計部のインタビューに参加した。主に衛生設備・空調設備

以て体験し、問題点を整理し、解決策を講じる習慣が身についた。

今回のインターンシップでは開業の準備や店舗運営の大変さ、自分の未熟さを痛感したが、同時に自分の成長を感じることもできた。常にサポーターとしてくださった社員の方々に、切磋琢磨し合えたインターンシップのメンバーには心から感謝している。

(心理 土屋しおり)

の二つの分野の設計業務を体験し、実際の大型店舗の衛生器具の選定やお客様に対する器具の提案書作成、給排水ガス使用量の算定な

ども行った。設計図面を書くまでに至るまでの過程を学び、設備設計の仕事を知る良い機会になった。

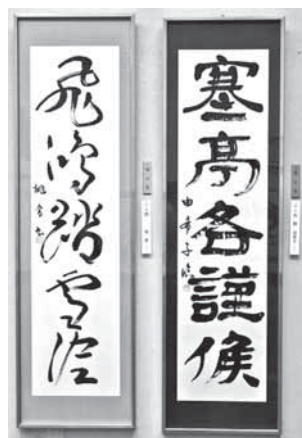
設備機器という馴染みのない機器を選定することを体験させてもらったが、ショールームで実物を見ることができたため、何をどのように選定するか、具体的に考えることができた。企業向けショールームなどで、普段は目にするものがない設備を見ることが貴重な体験だった。

「毎日女流書展が毎日新聞社と西部毎日書道会の主催で八月に開催された。入賞者は毎日新聞紙上で発表され、今年も多くの本学学生が入賞した。

毎日賞の矢野さんは毎日賞連続受賞、毎日書道展連続入選と二つの大きな賞の連続受賞という快挙。翅桃香さんも長くかなりの枚数から選んだ初出品の作品での受賞である。この実力者揃いの書道部は、昨年秋季祭で好評だった多森さんのアイディアによるパフォーマンスを、今年も高校時代家庭で巨大作品を書くパフォーマンスをした、矢野さんを中心に行う予定

## 第三八回 毎日女流書展受賞者

- 毎日賞
- 矢野由希子 (歴三年)
  - 翅桃香 (日三三年)
  - 秀作賞
  - 多森友衣子 (日四四年)
  - 東條康子 (日三三年)
  - 福島弥生 (日二二年)
  - 佳作賞
  - 竹下由唯 (二六年度日三)
- 入選
- 小野寺亜実 (二六年度現代季)
  - 藏越美紀 (福社三年)
  - 今井彩瑛 (健康二年)
  - 野呂田詩織 (歴二二年)
  - 長瀬亜希子 (日四四年)
  - 嶋田里美 (日三三年)
  - 山本成美 (日三三年)
  - 山下優美子 (英三二二年)



(右) 矢野由希子 臨書「塞亭各謹候」  
(左) 翅桃香 創作「飛鴻踏雪泥」

毎日賞の矢野さんは毎日賞連続受賞、毎日書道展連続入選と二つの大きな賞の連続受賞という快挙。翅桃香さんも長くかなりの枚数から選んだ初出品の作品での受賞である。この実力者揃いの書道部は、昨年秋季祭で好評だった多森さんのアイディアによるパフォーマンスを、今年も高校時代家庭で巨大作品を書くパフォーマンスをした、矢野さんを中心に行う予定



実際の業務で行われる一連の仕事を研修させていただき、これまでイメージすることのなかった設備設計の仕事の具体的なことができたのは、私にとって非常に大きな成果だった。自分の将来の選択肢を広げる貴重な体験をさせていただき、大変感謝している。

(環境 瀧本風子)

# choco talk

"choco talk"は、学報委員によるミニコラム。身近なことから社会現象まで、様々なテーマでお届けします

夏休み、都内の児童養護施設で1ヵ月間社会福祉士実習を行った。実習先は、3歳から高校3年生の男女6人が共に生活しているホームである。1ヵ月間、子どもたちと遊んだり、ご飯を食べたり、時には小学生の宿題を手伝うなど、家庭的な環境で共に生活をした。その一方で、ソーシャルワーカーとして児童養護施設の役割や施設職員の働きを学び、施設入所する子どもが抱える課題や、課題に対する援助方法について考え、学ぶ日々でもあった。

子どもたちの背景にある問題は、虐待、親の病気や犯罪等、いずれも重く大きい。「子どもにとって一番の幸せは、家族と呼べる人がそばにいて愛されること。自ら希望して入所する子どもはおらず、施設としてどれほど良い環境を与えても、子どもに一番必要な親の愛情を与えることはできない」という職員言葉が印象に残る。施設職員の役割とは、親に代わり愛情を注いで子どもを養育し、他機関とも連携し子どもと家族の再統合の架け橋となることであると学んだ。

正直に言うならば、第一希望の実習先ではなかったが、施設の子どもたちは皆明るく親しみやすく、夕食を作った際には「お姉さん、今日のご飯美味しかったよ」と声をかけてくれる等、子どもに励まされることが多かった。この実習で施設職員として働く楽しさややりがいを感じる事ができた。実習を終えた今、貴重な学びを得たと同時に、素晴らしい体験に満ちたひと夏を過ごすことができた。

(学報委員 沖野広香)

## 先生の研究室訪問 きっかけをひくね「J」J「J」

現代教養学科准教授 シム チュン・キャット先生



シンガポール生まれの先生は、授業でもよく故郷の話がされる。日本に来たきっかけを聞いてみると、十代の頃好きだった日本のアイドルの歌詞を理解するには日本に旅行しかなないと、一九歳で来日されたそうだ。「皆「鍵」にすぎず、開けてみたら、思いがけず広い世界が待っていたのだ。成人式も日本で迎えた先生は、「いいことも悪いことも、日本に教壇が私の舞台」と話す。シンガポールは奨学金で演劇をつくりあげるよ

が充実しており、先生も奨学金で留学。その代わりに公務員になることが決められていて、先生は教育省で約七年、技術教育を担当された。一八歳で三〇歳までの人生が決まってしまうわけだが、先生は「置かれた場所であきらめなさい」という言葉がある。与えられた場で最善を尽くす。そう考え、教育分野でがんばってき「た」と話して下さった。

先生は、「今は小さな教壇が私の舞台」と話す。演劇と教育には通じるものがある。舞台と客席で演劇をつくりあげるよ

うに、授業も教員と学生両方できりあげられる。だから、シム先生は学生の授業参加と反応を大事にしているそうだ。先生のモットーは、常に「J」を持つこと。のほほんと毎日を送るのではなく、常に考える。そのためのスタートが疑問を持つことなのだ。けれど、世の中には正解がないことばかり。だから「J」は、「正解」ではなく、気づきのなか。先生の最大の「J」は、なぜ生きているのか。「最終的には死が待つ」という事実を消極的に考える人もいるが、私は生きていることに積極的。死んだ後何か残れば繋がっていく。その方法の一つが教育だと思う。学



### MIRAI INC. プロジェクトスタート

リスト株式会社と協働で

リスト株式会社は、社員、様々な企業で働く女性社員と女子大生が協働し、女性ならではの目線に住まう空間を考えた「MIRAI INC.」というプロジェクトが不動産会社のリスト(株)主催ではじまった。参加者は、住宅設計、営業、広告作成、学生など様々な立場から「こんな家が欲しい」という夢の家や新しい住み方を考える。さらにそれを現実にさせるために、具体的な

マーケティング・リサーチや意識調査、事例調査を行い、商品開発の流れも実務的に学んでいる。プロジェクト内では、それぞれ子育てや、オリジナリティなど主軸が異なる三つのチームに別れている。私は「スマイルマザー」というワーキングマザーをターゲットとしたチームに所属し、働きながら子育てをする女性に、快適に家事・育児をするための提案を行っている。プロジェクトは、二月に最終プレゼンテーションを行う予定だ。果たして夢の住まいを実現することはできるのか……。各チームは日々奮闘中だ。(院環 佐藤千尋)

## DREAM手帳2015は 来年4月に配布します!



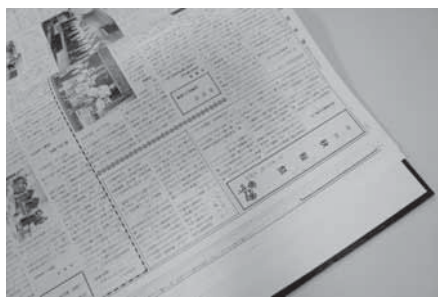
### 学報委員会 学報ビストリ

現在五八二号まで続く昭和学報。『昭和女子大学七十年史』によれば、校友会報として『女性文化』『学苑』『学苑学報』など名称やその内容を変えつつ発行され続けている。現在のようなスタイルとなったのは昭和三九年からで、発行当初から、我が校の学生の声を届け続けてきた。『昭和学報』はまとめて製本されており、一部欠号があるものの、図書館で閲覧することができる。今号は、秋桜祭にスポットをあて、『昭和学報』を遡ってみた。

今年二回目となる秋桜祭は、九四年という学園の歴史の中では、まだまだ新しい行事である。第一回は平成五年一月、昭和学報第三三五号でその様子を知ることができた。サークルや、学科による研究発表など三六団体に参加し、今年の秋桜祭にも参加するワンダフルオーケストラによるダンゴ屋や、バスケットボール部が現役VS.O.Gの招待試合をしたことなどが書かれている。

さらに遡ると、昭和祭と呼ばれる行事を見つけた。これは現在の秋桜祭のように、有志の学生による企画運営ではなく、附属校も参加する学園の

全体行事であった。大学部門でも全学生が参加し、学科ごとにテーマが掲げられ、学生たちは学年の壁を越えて力を合わせ、趣向を凝らした展示発表をした。他学年との交流に苦勞しながらも準備し、充実した学園祭だったことが紙面から伝わる。過去の『昭和学報』に目を通すと、先輩たちがどのような思いを持ち大学で学んでいたかを垣間見ることができ、なかでも昭和祭は学生が力を合わせ達成した喜びが大きい思い出として残っていると感じた。今年の秋桜祭もまもなく開催される。参加学生の心を伝えるような紙面づくりを学報委員も心がけたい。(学報委員 野沢春佳)



# 輝け☆健康「美」プロジェクト キャロットタワー内レストランにメニュー提供

九月一日から一カ月からハンバーガーランチ間、三軒茶屋にあるキャロットタワー内のレストラン「スカイキャロット」で、「輝け☆健康「美」プロジェクト」で「美」プロジェクトで考案したメニューを提供させていただいた。メニューは「まめに豆を食べよう！」というコンセプトで、「枝豆ご飯とお

からハンバーガーランチの内容は、枝豆ご飯、おからのハンバーグ野菜添え、長芋と小松菜の炒め物、人参と胡瓜のピクルス、お吸い物、梨となつており、低エネルギーで野菜をたくさん食べられる献立である。このメニューは、本学の「ソ

ファイア」で提供しているH&Bランチが基となっており、ソファイアでは月二回メニューを提案している。今回は株式会社フジランドとコラボレーションとさせていただくことができた。

私たちの考えたメニューが一般のレストランで提供され、お客さまが召し上がっていらつしやるのを見て、とても嬉しかった。プロジェクトの活動をより多くの人に知っていただくと共に、H&Bランチも多くの学生に食べてもらいたい。

(健康 奥山佳澄)



## ENVOWワークキャンプ

### 東日本大震災被災地の人びとに学ぶ女川ワークキャンプ

八月に行われた女川ワークキャンプに参加した。活動は、小屋取浜の鳴り砂清掃や、寄贈図書の整理、保育所や子育て支援センターの乳幼児との触れ合い交流の運営補助など多岐にわたった。初日には、震災の語り部の方から被災当時の状況も伺った。被災から三年半が経ち、瓦礫の撤去作業も進み、仮設住宅ではあるが生活にも見える。しかし、現地の方々は一様に「震災を忘れないでほしい」とおっしゃっていた。

今、私たちができることは何かを考え活動してきたが、何かをしてあげるのでなく、自らの学びにつなげる気持ちが大切だと気付いた。何より「忘れない」ことが大切



## ポケット・ガーデンボランティア活動が表彰

ポケット・ガーデンボランティア活動が、八月二八日に国土交通省関東地方整備局東京国道事務所から表彰を受けた。長年にわたる昭和女子大学

学生の国道の環境美化、地域貢献活動が表彰対象となった。活動は今年で六年目となり、現代教養学科以外の学生も数多く関わってきたが、現在は現代教養学科の学生有志で活動を行っている。現二年生が活動に参加した当初は、先輩方もいて指導を受けながら一緒に活動していたが、今年になって先輩方から引き継ぎ、積極的に活動することが求められるようになった。国道沿いというあまり



環境が良くない花壇でも、植えたお花が元気に花を咲かせているととてもやりがいを感じ、十数名の参加メンバーで力を合わせ努力している。表彰のお話を頂いたときは、とても該当するような活動ではないかと思っていた。しかし、国交省道路管理担当の方のお話では、国が全ての国道を管理し手入れを行うことは難しく、微力ながらも私たちのような活動が大切で、地域や国のためになっていることが分かった。とても嬉しく思うのと同時に責任感も感じ、さらに継続的な活動で国や地域に貢献していきたい。

(現代 前村百香)

## 伊那の谷・風の学校ボランティアワークキャンプ

### 今回のキャンプでは、参加者は「歴史と文化」「食と生活」「自然と暮らし」「子どもの育ち」のテーマごとに、古地図をもとにした市内散策・伝

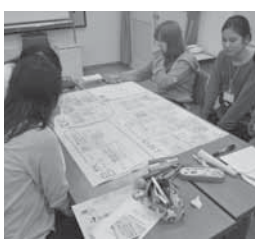
統食調理・有機栽培農業・野外保育・まちの体験学習を行った。活動を通して、人とコミュニケーションが培ってきた暮らしの文化や地域資源について知識を深めた。さらに世田谷と伊那との

相互交流の「縁」を結ぶために私たち学生が何をすべきかについても考え、行動提案をした。

私は、野外保育を行っている「山の遊び舎」は「らべこ」で二日間活動した。何事にも先入観なく積極的に受け入れる子どもたちと触れ合い、自分もいつの間にか受け身になっていくことに気づいた。

多くの体験を共にしたこと、提案を考えるミーティングでは仲間と本気でぶつかり合うことができた。今回話し合った提案を無駄にせず、実現を目指した活動を継続していきたいと思う。

(心理 西田理紗)



## 行事予定

- 11月 2日(日) 指定校制・公募制・光業同窓会推薦入学試験(大学1・3号館への入館不可)
- 11月 5日(水) 墓前祭(11:00)  
【女教】 鷺田清一氏「フォロワーシップについて」(15:30)
- 11月 7日(金) 秋桜祭準備(一日休講)
- 11月 8日(土) 秋桜祭
- 11月 9日(日) 秋桜祭
- 11月10日(月) 秋桜祭片付け(一日休講)
- 11月12日(水) 生活機構学専攻博士論文中間発表(16:00)  
【女教】 山口 香氏「スポーツの価値—アスリートと社会—」(15:30)
- 11月13日(木) 月曜代替日
- 11月15日(土) 第32回メンターカフェ「公務員として働く!」(13:30)
- 11月18日(火) 【文研】 オペラ・アリア・コンサート(18:15)
- 11月19日(水) 【女教】 高田真理氏「『やりたいことで喰ってみる』紙芝居道40年のヤッサンに弟子入りして(仮)」(15:30)
- 11月20日(木) 第41回メンターフェア (11:45)  
学内合同企業説明会(平成27年3月卒業予定者対象)(12:30)
- 11月26日(水) 【文研】 ウィーン弦楽四重奏団(18:15)
- 11月27日(木) 【文研】 カピタン・ロシア民族アンサンブル(18:15)  
産学情報交換懇談会
- 11月28日(金) 月曜代替日、第42回メンターフェア (11:45)
- 11月29日(土) インターンシップ報告会(13:00)  
グローバル入学試験、外国人留学生入学試験11月期(一般・編入)、編入・転入・学士入学試験(大学1号館3~5階立入不可)

## 学園今昔



いよいよ秋桜祭開催が目前に迫っている。第二回の秋桜祭テーマである「笑顔」を忘れずに、一四〇名の実行委員がこころを一つにして活動していく。多くの方の参加をお待ちしている。



後期から、キャリア支援センターがリニューアルした。新たに相談カウンセラーが設置され、これまで以上に充実したキャリア支援を目指す。

第二回秋桜祭実行委員会幹部